

「初詣は、コミュニケーションの上達を願う」ためかな？

当 HP のスナップ P を覗いてくれたメル友から、「新年の最初のお詣りだけが『初詣』では？」とのメール。

つまり、自分のように松の内にくつもの神社等へ詣る毎に「初詣」とはいわないのではないか？とのことのように。

そう云われれば、実際のところはどうかさっぱり分からないので、この際と思いネット検索した。

【初詣の「初」は、「初めての」「新しい」といった意味。「詣（詣で）」は、「参出（まゐいで）」から転じた「まゐで」が変化した語。漢字の「詣」は「言」と「旨」からなり、言葉遣いに旨みがあるところまで上達することを表し、転じて、高い所にいきつくことを意味するようになった字である。

その意味がさらに転じて、神社や寺にお参りすることを表すようになり、「初詣」や「詣でる」など「参出」を表す字として使われるようになった。】

【参拝するときには、まず鳥居の所で衣服を整え、軽く一礼してから境内に入ります。

次に手水舎（てみずや）の水で両手を清め、口をすすぎます。このことを「手水を使う」といいます。手水舎の水盤には、たいてい「洗心」という言葉が彫られています。これには両手を清め口をすすぐことにより、心（魂）も洗い清めるという意味があるのです。】

【神前で鳴らす鈴も、この神楽鈴に由来するとされ、神さまを拝礼するにあたり、鈴のその清らかな音色で神さまをお招きし、これから祈願を申し上げるといって、一種の合図のような役割を果たしているのです。】

【拍手については、中国の史書「魏志倭人伝」に倭人の風習として、貴人に対し手を打ってひざまづいて拝礼をしていたことが記されている。神道における拍手も同様に、敬う気持ちの表れといってもよいでしょう。】

自分の疑問は解けなかったが、今年一年の「言葉遣いに旨みがあるところまで上達する（人のとコミュニケーション（人間関係）がうまくいく）」ように、「新年（松の内）に、何度も「神社や寺に」お願いし、その努力をすることを誓いお参りすることを、「初詣」と云ってもいいのかな？」というのが、我流の解釈に落ち着いた。

だって、コミュニケーションに不器用な自分が、一度だけの「お詣り」でうまくなると思うほど、厚かましくもないしね。

この謙虚さ（？）故に、色んな神社や寺に「初詣」する自分かもね(^o^)

(2006年1月11日 記)